

平成30年度第1回 名古屋市交通事業経営有識者懇談会

次期経営計画策定の 基本的な考え方について

平成30年6月12日

名古屋市交通局

目次

1 概要	1
2 策定スケジュール	2
3 計画期間	3
4 計画策定の道すじ	4
5 取り巻く状況・現況と課題	5
6 課題及び施策の整理	15
7 交通局職員が考える「めざすべき姿」	16
8 計画の理念	19

1 概要

- ・ 現在、取り組んでいる「名古屋市営交通事業経営計画（2015-2018）」の計画期間が平成30年度末で終了することから、平成31年度以降の新たな計画を策定するものです。
- ・ この計画は、現在、策定中の名古屋市次期総合計画の個別計画として策定するものです。
- ・ また、総務省より、中長期的な経営の基本計画として策定が求められている「経営戦略」としての位置付けを併せ持つものです。

2 策定スケジュール

○ 平成30年6月12日（火）

名古屋市交通事業経営有識者懇談会（第1回）
『次期経営計画策定の基本的な考え方について』

○ 平成30年 夏頃

名古屋市交通事業経営有識者懇談会（第2回）
『次期経営計画の中間案について』
（『名古屋市営交通事業経営計画（2015-2018）の進行管理等について』）

○ 平成30年 秋頃

名古屋市交通事業経営有識者懇談会（第3回）
『次期経営計画（案）について』

○ 平成30年 冬頃

名古屋市会土木交通委員会における所管事務調査

○ 平成31年1月頃

パブリックコメントの実施

○ 平成31年3月

策定（公表）

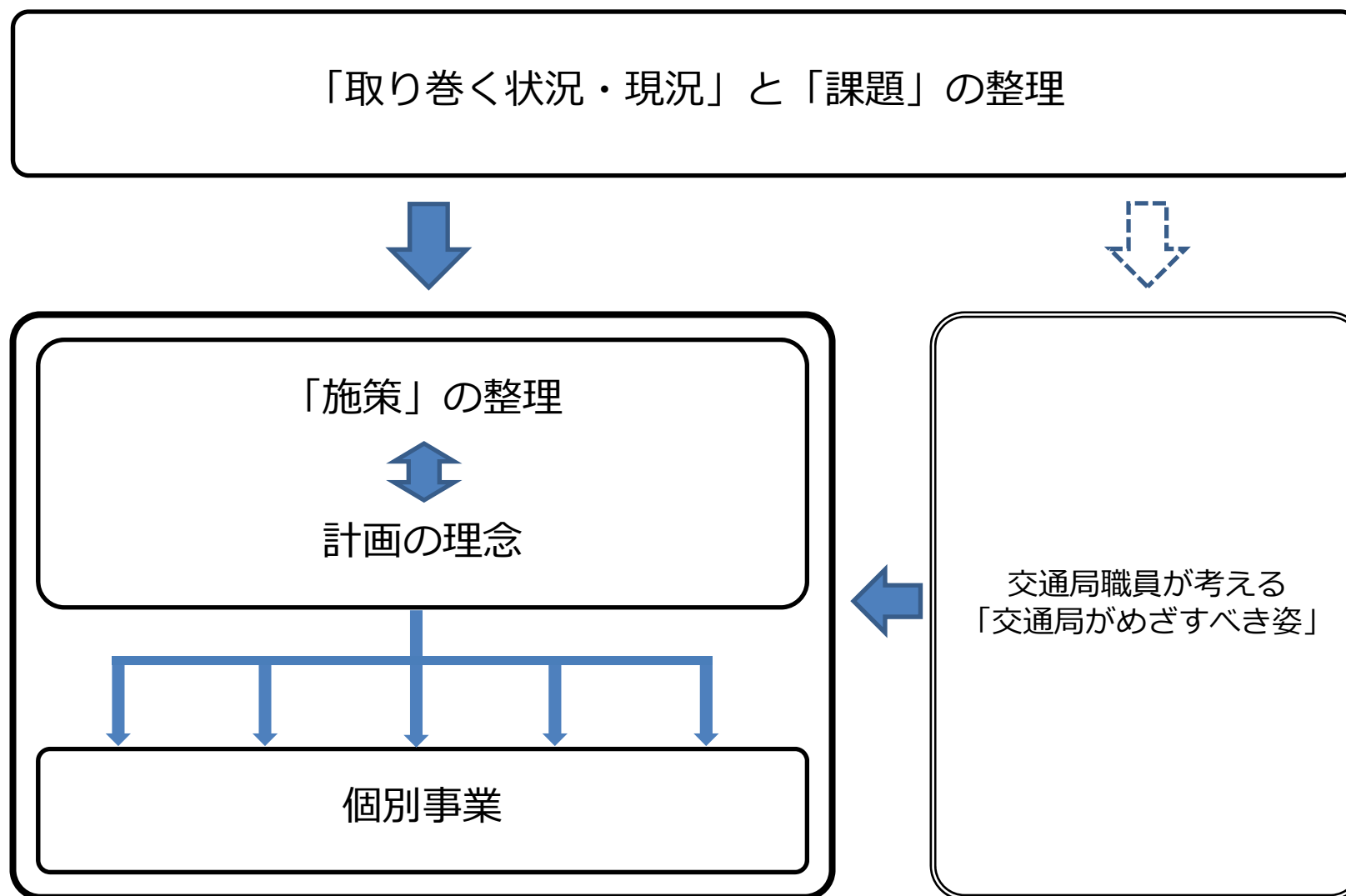
3 計画期間

平成31(2019)年度から
平成35(2023)年度まで
の5年間

なお、長期的展望にたつ
た収支計画は、
平成31(2019)年度から
平成40(2028)年度まで
の10年間

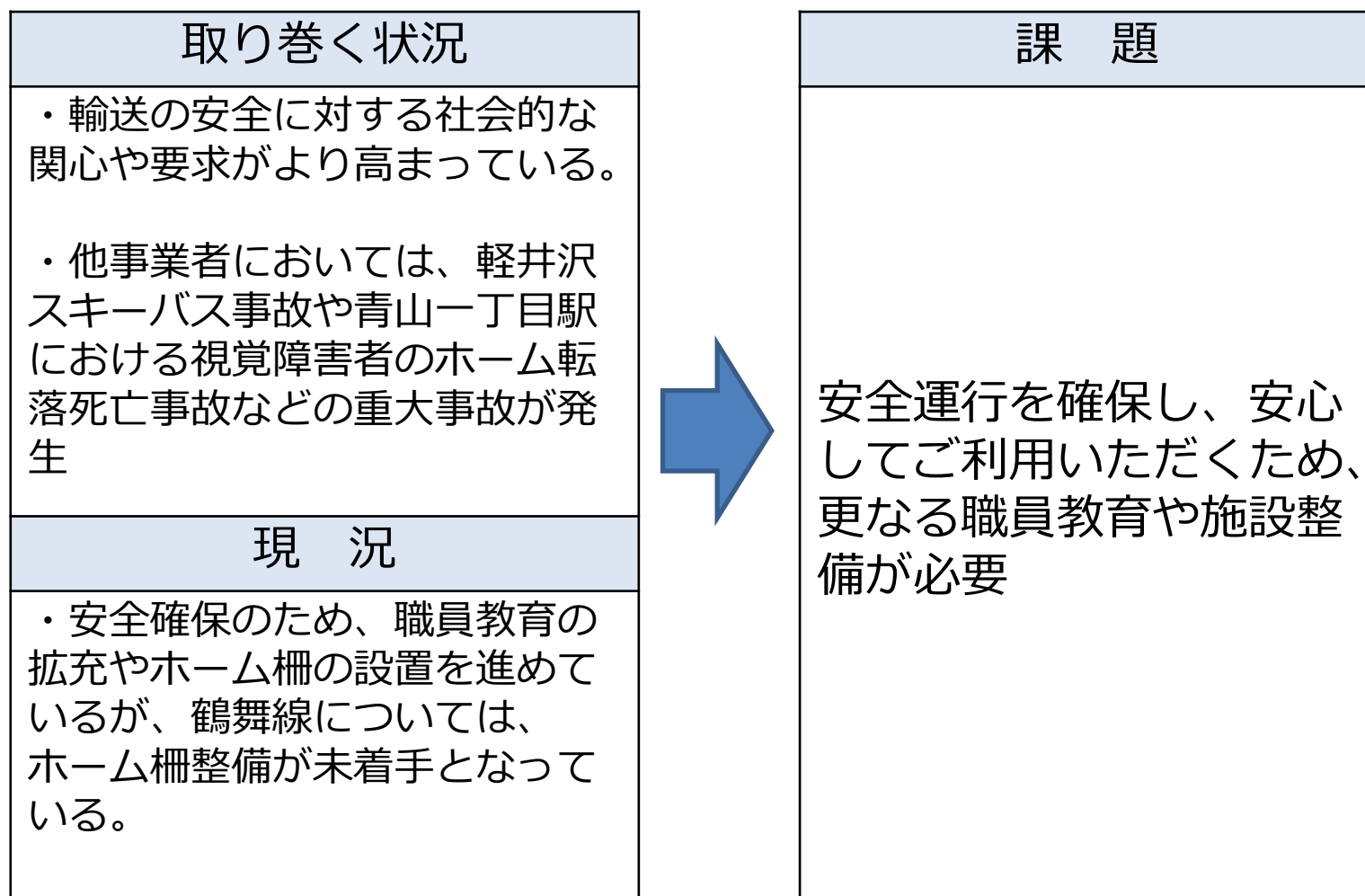
年度	事項	次期経営計画	参考
平成30 (2018)		策定	策定
平成31 (2019)		施策等 5年間	名古屋市次期総合計画 5年間
平成32 (2020)	東京オリンピック・パラリンピックの開催		
平成33 (2021)			
平成34 (2022)	市営交通100周年 名古屋城天守閣木造復元		
平成35 (2023)			
平成36 (2024)		長期的展望にたつた収支計画 10年間	
平成37 (2025)			
平成38 (2026)	第20回アジア競技大会（開催都市：愛知・名古屋）の開催		
平成39 (2027)	リニア中央新幹線（東京—名古屋）開業		
平成40 (2028)			

4 計画策定の道すじ



5 取り巻く状況・現況と課題

(1) 安全の確保



(2) 自然災害への備え

取り巻く状況
・南海トラフ巨大地震など自然災害発生が懸念されている。
現 況
・地下鉄構造物の耐震補強工事について、一部計画に遅れが生じている。



課 題
自然災害等による被害を最小限に抑えるとともに、早期復旧ができるよう災害対策の計画的な推進が必要

(3) 計画的な維持管理

取り巻く状況
・高度経済成長期に集中的に整備されたインフラを維持するため、今後、一斉に更新やメンテナンスが必要になることが懸念されている。
現 況
・地下鉄は開業から60年以上経過しており、今後、改修や更新が必要となる施設等が増加する。



課 題
運行に支障を生じさせないため、引き続き、長寿命化を図りながら、計画的な維持管理が必要

(4) 快適性の向上

取り巻く状況
・施設等の美観や清潔感など、快適性向上に対するお客さまのニーズが高まっている。
現 況
・地下鉄駅の半数以上が、開業から40年以上経過しており、駅施設等の経年劣化が進んでいることから、駅の美観や清潔感が損なわれている。 ・お客さまから、地下鉄駅が「暗い」「汚い」などのご意見が寄せられている。



課 題
快適・便利にご利用いただくため、駅施設のリニューアルや清潔感の向上等が必要

(5) 移動しやすい環境の整備

取り巻く状況
・高齢者人口の増加など、人口構造の変化が進んでおり、今後さらに高齢化が進む。 ・障害者の社会参加が進んでいる。
現 況
・全駅でホーム・地上間のバリアフリールートをつなぐワンルート確保しているが、更にエレベーターの増設を求めるご意見が寄せられている。 ・市バス・地下鉄のネットワークは市内全域をカバーしているが、バス路線のうち約7割が赤字となっている。



課 題
・高齢者や障害者など、誰もが快適・便利にご利用いただけるようにするため、更なるバリアフリー化が必要 ・需要が少なく採算が取れない路線であっても、移動手段を確保する観点から、現在のサービス水準の維持が必要

(6) 来訪者にも利用しやすい環境の整備

取り巻く状況		課 題
・ 近年、訪日外国人旅行者数が大幅に増加している。 (平成29年約2,900万人、平成24年の約3.4倍)		国内外からの来訪者の増加に向け、わかりやすい情報の提供や使いやすい乗車券の設定など、より便利にご利用いただける環境を整備することが必要
現 況		
・ 愛知県への訪日外国人の訪問率は、東京、大阪の約2割。旅行消費単価は、東京、大阪の約6割にとどまっている。		

(7) リニア開業に向けた対応

取り巻く状況
・リニア開業に向けて、名古屋駅周辺のまちづくりが進められている。 ・新たな交流圏の形成により、人の流れの変化が見込まれる。
現 況
・名古屋駅は鉄道相互の乗り換えがわかりにくく、円滑な乗り換えができていない。 ・東山線の混雑が非常に激しい。



課 題
・名古屋の玄関口にふさわしい駅の整備が必要 ・名古屋駅の駅空間の再整備が進められる中で、附帯事業収入の確保が必要 ・多面的な取り組みによる東山線の混雑緩和が必要

(8) おでかけの促進

取り巻く状況
・インターネット利用者の増加などに伴い、外出率などが減少している。(休日の外出率の減少が顕著)
現 況
・市バス・地下鉄の乗車人員については、定期は増加傾向にあるものの、定期外はほぼ横ばいとなっている。



課 題
定期外利用者の増加を目指して、更なるおでかけ促進策の展開等が必要

(9) 人材の確保・育成

取り巻く状況
・生産年齢人口の減少に伴い、今後も全国的に人手不足が続くことが見込まれる。 ・全国的に大型二種免許保有者が減少(59歳以下の減少率が高い)
現 況
・市バス運転士や技術員の採用選考で予定した人数が確保できない状況が発生 ・市バス運転士の需給は、今後も厳しい状況が続く見込み。



課 題
交通サービスを持続的に提供するため、バス運転士をはじめとする人材の安定的な確保・育成が必要

(10) 経営基盤の強化

取り巻く状況
・ 公営企業については、総務省から、将来にわたって安定的に事業を継続していくための中長期的な基本計画である「経営戦略」の策定が求められている。
現況（平成28年度決算）
【市バス】 営業損益　： 約12億円の赤字 累積欠損金： 約380億円 債務超過　： 約67億円 ※全163系統のうち黒字は 44系統（約27%） 【地下鉄】 営業損益　　： 約131億円の黒字 累積欠損金　： 約2,482億円 企業債残高　： 約5,109億円 実質資金不足： 約2,299億円



課 題
将来にわたって安定的に交通サービスを提供するため、更なる収入増加方策の取り組み等による収支の改善が必要 【市バス】 社会基盤としての路線網を維持するため、公的負担の継続が必要 【地下鉄】 乗車人員の拡大に向け、駅施設リニューアル等への投資が必要

6 課題及び施策の整理

取り巻く状況・現況から整理した課題			「施策」
(1)	安全の確保	}	安全・安心な輸送サービスの提供
(2)	自然災害への備え		
(3)	計画的な維持管理		
(4)	快適性の向上	}	快適性・利便性の向上
(5)	移動しやすい環境の整備		
(6)	来訪者にも利用しやすい環境の整備		
(7)	リニア開業に向けた対応	}	まちのにぎわいづくりへの貢献
(8)	おでかけの促進		
(9)	人材の確保・育成	}	安定した運営基盤の確立
(10)	経営基盤の強化		

7 交通局職員が考える「めざすべき姿」

【募集期間】 平成30年4月11日～5月7日

【意見件数】 344件 【提出人数】 242人

区 分	件 数	構成比率
安全・安心	58件	17%
快適・便利	105件	30%
まちづくりへの参画	17件	5%
乗客誘致	19件	6%
職場改善、職員力・モチベーション向上	98件	28%
持続的なサービスの提供	47件	14%
総 数	344件	100%

区分	主な意見
安全・安心	・ 使命である安全・安心な運行を確保すべき ・ 高齢者の事故を防止すべき ・ 自然災害に強い交通局をめざすべき ・ 事故時に迅速な対応ができる体制を構築すべき
快適・便利	・ 誰もが利用しやすく便利な交通局にすべき ・ お客さまに満足いただけるサービスを提供すべき ・ わかりやすい市バス・地下鉄とすべき ・ 快適で気持ちよく利用できる交通事業者をめざすべき ・ 明るく清潔で使いやすい駅空間とすべき ・ 時間通り運行して安心して乗車できるようにすべき ・ 最先端技術を活用すべき
まちづくりへの参画	・ 市政を担う一員として、まちづくりに率先して参加し、地域の発展に資するべき

区分	主な意見
乗客誘致	・ イベント強化やスポーツなどとの協働をするべき ・ 利用していない層に利用してみようと検討させるきっかけをつくるべき ・ 観光客獲得に努力すべき ・ 車から公共交通機関への転換をめざすべき
職場改善、 職員力・ モチベーション 向上	・ 働きやすい職場とすべき ・ モチベーションを向上すべき ・ 人材の確保に取り組むべき ・ 職員の健康を守るべき ・ 魅力ある職場とすべき ・ 働きがいのある職場とすべき ・ 誇りをもてる職場づくりをすべき ・ コンプライアンスを徹底すべき
持続的な サービスの提供	・ 安定的に経営できる企業体をめざすべき ・ 地域に密着し、愛され、信頼される交通をめざすべき ・ 収益を増やすべき ・ 欠かせない交通局となるべき

8 計画の理念

「 新たなステージへ 」

私たち名古屋市交通局は、
安全を最大の使命としつつ、
快適さ、便利さを
積極的に高めることにより、
誰もが安心して利用できる
市バス・地下鉄を目指します。

【 計画の理念に込めた思い 】

これまでの施設等の維持管理に重点を置いたステージから、美観や清潔感、使いやすさ等の快適・利便性を高めていくというひとつ上のステージへとステップアップをはかり、市域のシェアが高いことに慢心せず、誰からも選ばれる市バス・地下鉄を目指すという思い